

今後の取組み



1. H29年度以降の企画部会の取組み

➤ H28年度検討結果に基づき、H29年度は『サイクルマップ作成』や『サイクルツーリズムの仕組みづくりへ向けた検討』等を実施

■サイクリングマップイメージ

■宮崎日日新聞朝刊記事 (H29.3.10)

クローズアップ 県17年度予算案
 <5>

ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)日本代表の強化試合があった2月下旬、宮崎市のシーガイア・旧オシヤントーム立体駐車場から、10人が自転車に乗って球場の区画を回り、MIAサンマリンスタジアム脇まで向かった。片道約20分。翌日は16人が広島カーブのキャンプ地・白南市を散策した。

ともに県主催で、サイクリングと観光資源を組み合わせたツアー。この取り組みを発展させようとして、2017年度一般競争入札予算案に「みやざきサイクルツーリズム推進事業」700万円を計上した。全県に広がる自

観光・スポーツ

誘客へ自転車ツアー

転車を切り口にした観光振興策で、若手・中堅職員が知事に直接提案する「チャレンジ枠」で予算化。河野知事も「金額の多寡にかかわらず重要な事業」と位置付けている。

先遣地として広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ「瀬戸内しまなみ海道」がある。全長約70キロで、瀬戸内しまなみ海道振興協議会にまよる、15年度の推計利用者は約32万人。5年間で約15万人増えた。自転車を用いた事業に取り組む自治体は増え、秋田県も昨年から予算化し、台湾や香港からの誘客も図る。

本県が描くのは、サイクリングと史跡めぐり、農業体験などを組み合わせたツアー。ターゲットとする



る客層や消費拡大に向けた仕組を調査し、ガイドも作成する。西

部、串間市では農産物収穫や定置網漁体験などを組み合わせたツアーが民間主導で実施されており、県として独自の取り組みを確立できる見込みがある。

串間市サイクリング協会の嶋戸成義事務局長(39)は「車では見落とさぬ景色を楽しめるのも自転車の魅力。県は地域住民と一体となったサイクルツーリズムの仕組みづくりに取り組んでほしい。県もサポートを交えて交流を促す」と話す。

県サイクリング協会の奥口一人理事長(53)は「西部市は全県14府県でサイクリングするツアーの参加者。県は観光ボランティアの組合を(宮崎県)25日、宮崎山崎町(宮崎県)で開く」と話す。

でなく、自転車修理や、けがの対応までできる人材が必要」と話す。

東宮五輪や、巡目団体へ向け可能性が広がる観光とスポーツ施策の融合。県はキャンプ誘致のこ入れのため「東京五輪事前合宿誘致推進事業」に2300万円を充てた。県と市が指定されている。参加国の選手ら地域の交流を促す国のホストタウン交流推進事業も拡大させる。

合宿チームのサポートも強化。選手がけがをした際の応急措置などに当たるため、県体育協会が全面に先駆け12年から認定する「アスレチックトレーナー」は約60人を組織化。県は選手育成などで支える。組織代表に内定している野崎東海(原)ハビリティ・セッション部の尾崎勝博部長(52)は「宮崎市は「気候だけでなく、清潔なトレーナー派遣を受けの充実が合宿誘致につながる」と意義を語る。(伊佐賢太郎、草野恵)

2. H29年度以降の整備部会の取組み

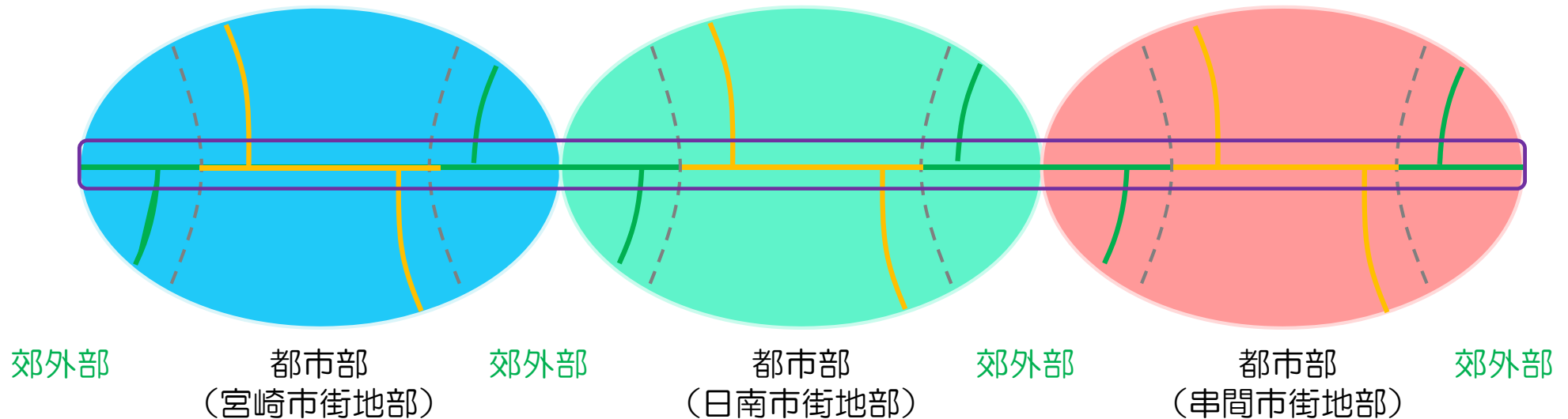
都市部、郊外部を踏まえた整備形態検討イメージ

《イメージ》

宮崎市自転車安全
利用促進計画

日南市自転車
ネットワーク
整備計画(仮称)

串間市自転車
ネットワーク
整備計画(仮称)



都市部

安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン【H28.7】

- I 自転車ネットワーク形成の進め方
 - ・自転車ネットワーク路線の選定等
- II 自転車通行空間の設計
 - ・安全で快適な自転車通行空間の設計に関する基本的な考え方

郊外部

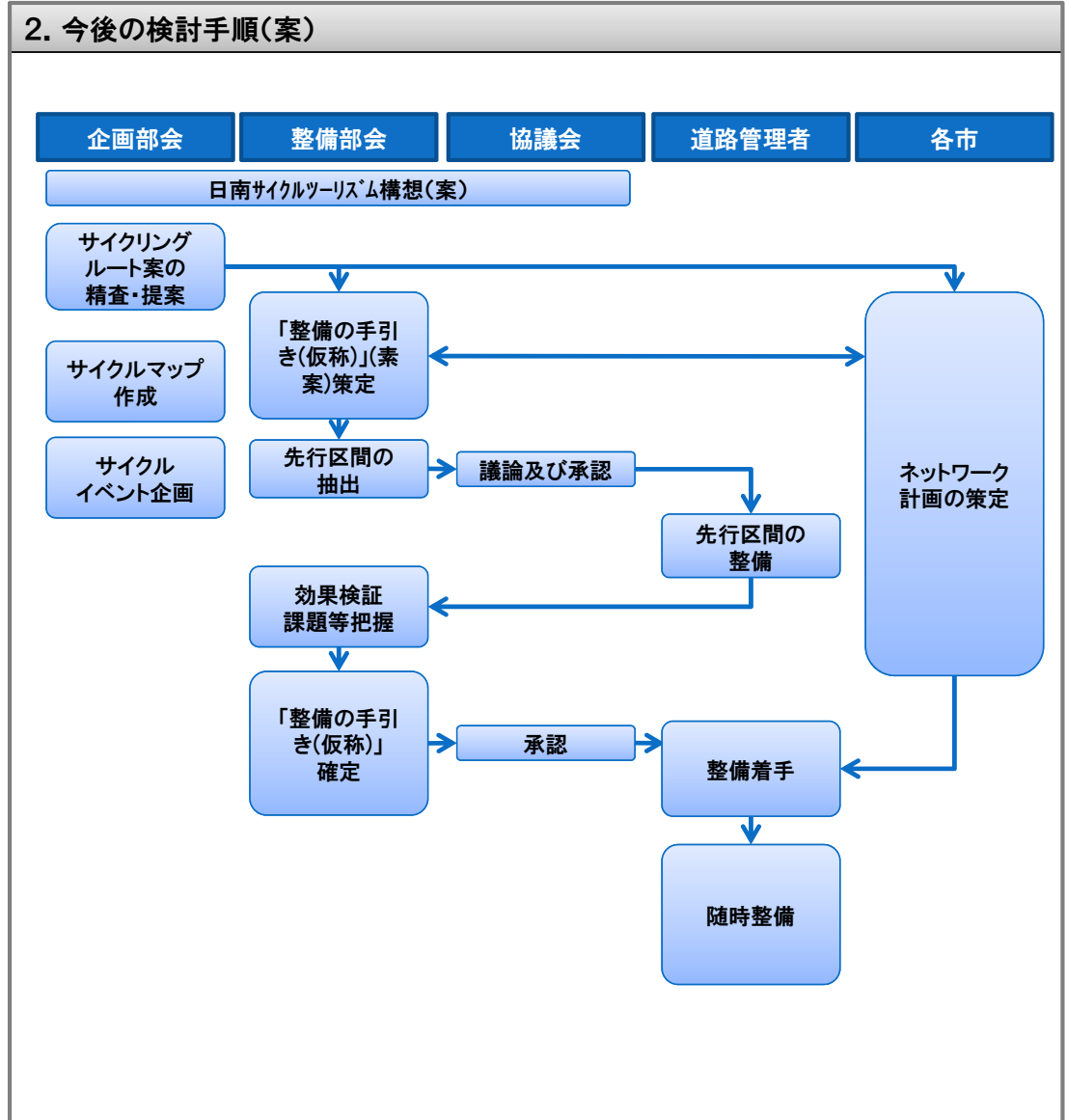
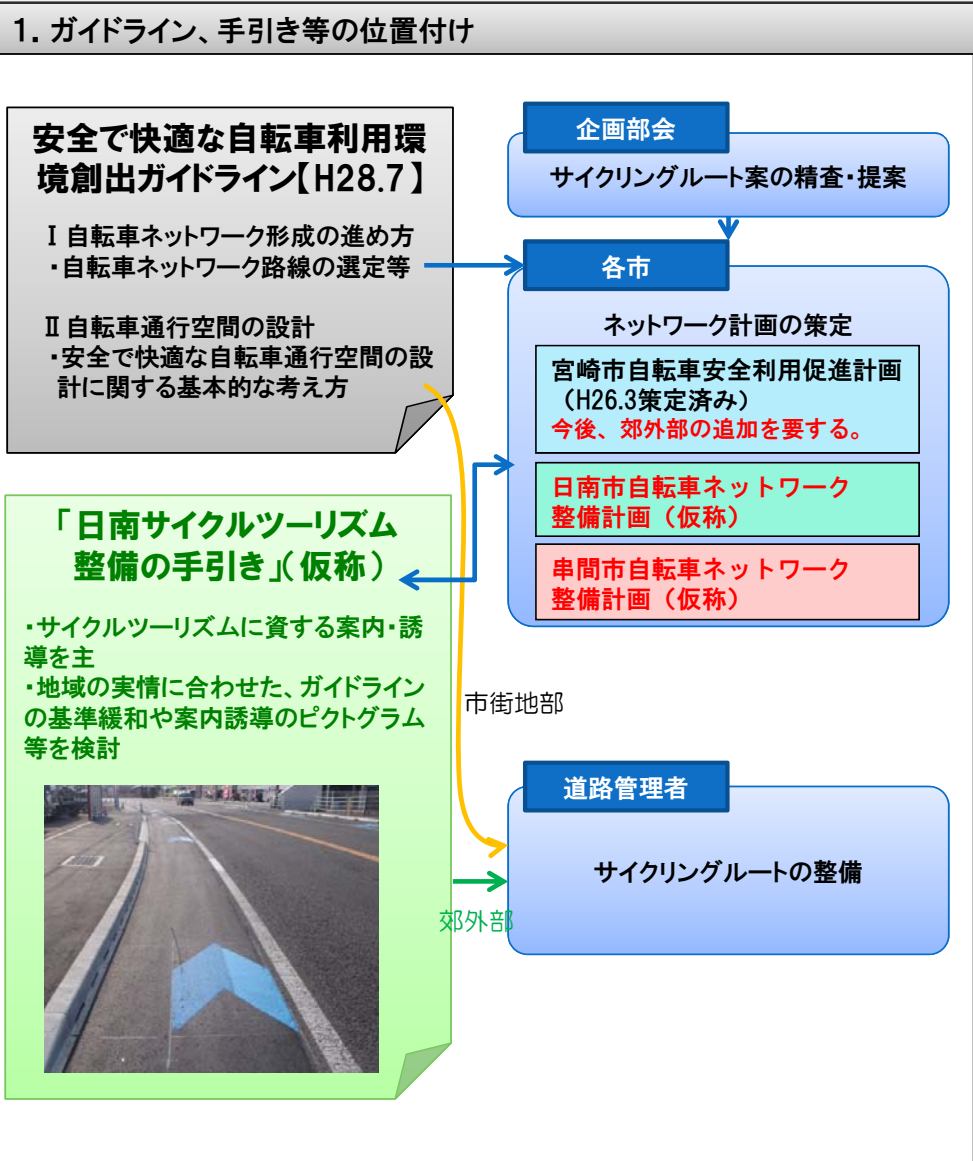
「日南サイクルツーリズム 整備の手引き」(仮称)

- ・サイクルツーリズムに資する案内・誘導を主
- ・地域の実情に合わせた、ガイドラインの基準緩和や案内誘導のピクトグラム等を検討

- ガイドラインを基本とするエリア
- 「日南サイクルツーリズム整備の手引き(仮称)」を基本とするエリア
- 日南海岸サイクルツーリズム協議会で定めるサイクリングルート

3. H29年度以降の検討の進め方

- 企画部会におけるサイクリングルート案の精査、提案に基づき、整備部会において、ガイドライン、手引き等の位置付けを整理して、「日南サイクルツーリズム整備の手引き」(仮称)の検討を進める
- サイクリングルートの整備にあたっては、各道路管理者が適切な役割分担の基で今後の検討を進める



4. H29年度検討内容

➤ H29年度は、H28年度検討内容を受けて、さらなる取組みの具体化へ向けて検討を推進

取組み内容		今後の主な検討事項(イメージ)	H28年度検討内容	H29年度検討内容
(1)サイクリングロード【企画部会】 ※構想(案)第4章第1節に対応		● サイクリングロードの詳細検討	● 地区別にグループワーキングを行い詳細検討	● 地区別グループワーキングにより継続検討
(2)ハード施策【整備部会】	1)日南海岸の実情に応じた自転車走行空間の整備 ※構想(案)第4章第2節①に対応	● 日南海岸における整備の考え方の検討 ● 車道混在の場合の整備手法の検討 ● 快適な自転車走行のための段差解消策の検討 等	● ガイドライン改定内容紹介 ● 今後の整備検討手順(案)の提案	● 日南海岸における整備の考え方の検討実施 ● 車道混在の場合の整備手法の検討実施
	2)サイクリストのニーズに配慮したサポート環境の拡充 ※構想(案)第4章第2節②に対応	● 案内誘導サインの設置検討 ⇒「コース案内サイン」「通行方法案内サイン」「休憩スポット案内サイン」について設置間隔、情報内容等について詳細検討 ● 適切な間隔での休憩施設確保に関する検討 ⇒設置間隔、対象施設、統一ルール、取組み体制等を検討 等	● 案内サイン、休憩施設確保などサポート環境設置に関する社会実験を実施	● 『道路協力団体制度』を活用し、本格実施 ● 休憩施設整備に係る検討実施
(3)ソフト施策【企画部会】	1)サイクリストの利便性を高める取組の推進 ※構想(案)第4章第2節③に対応	● サイクリングマップ作成 ● 多様な利用者へのサイクリング及び休憩施設等に関する情報発信検討 ● イベント開催へ向けた検討 ● 日南海岸へサイクリストを呼び込む仕掛けづくり ● サイクリスト受け入れ意識等の醸成 等	● 社会実験実施に合わせ、モニターツアーイベントや情報発信等の実施	● サイクルツーリズムの仕組みづくりへ向けた検討実施 ● サイクルイベントの開催に向けた関係機関の連携
	2)地域交流による憩いやくつろぎサービスの提供 ※構想(案)第4章第2節④に対応			
	3)サイクルイベントの充実・拡大による交流の促進 ※構想(案)第4章第2節⑤に対応			
	4)サイクルツーリズムの普及・拡大を通じた地域振興の新たな展開 ※構想(案)第4章第2節⑥に対応			
(4)今後の進め方【企画部会・整備部会】		● 取組みや整備に関する優先順位検討 等	● 今後の取組み検討	● 今後の取組み検討

※構想(案)は資料-3(P.4)

日南海岸サイクルツーリズム構想(案)の構成図を参照

第2回協議会(H28.2.23)資料5より一部修正